

この授業では、江戸時代中期に著された真宗の故実書である『考信録』を講読します。
『考信録』は、教義・歴史・勤式など、あらゆる分野の事柄について、典拠を探り、由縁をたどることで本願寺教団の本拠をあきらかにしようとしたものです。ここには、漢文で書かれた経典、その他の漢籍や読み慣れた日本の古典などがふんだんに引用されています。それらを読み進めるなかで、文献史料の読解に慣れ親しみ、自分自身で論点を見つけ、歴史的考察の方法を身につけてほしいものです。

各自でノートを作成し、勉学の足跡をしっかりと残して行ってください。